

その間、勿論幾つかの偏向と消長を経て来た。しかし今日の吾等の斗争は初期当時の一、二の単なる現はれた差別事象のみを対象とする紛争から、部落大衆を劣悪悲惨たる殖民地的生活水準と無権利状態に突き陥れておる身分的抑圧の一切と斗争、その生活と文化を昂めるための全額国庫負担による徹底的部落改良施設獲得の斗争にまで

議 論 議 案

### 佐藤中將糺弾聞争に関する件

提 出 九州地方協議会 説明

此の問題は社会の上層階級に属する陸軍中將佐藤清勝(明倫会理事)が、萬朝報紙上を通じて全国の吾々元来に與へたところ

の最も悪質な差別事件である。而して彼佐藤中將をして差別行為をなせしめた要因なるものが、徴兵令実施以来何等の融和政策

を樹立しないためピン／＼として差別事件が惹起するにも不拘、尚且つそれを軍事当局が放任しておたことに基つてゐる。軍隊内の差別を無くせよ！これは吾々の年来の叫びであり希望であつた。それにも不拘、過ぐる大正十五年には福岡縣隊事件その翌年には北原君の直訴事件を惹起する故と、かへつて反対に吾々の側に幾多のキツイを要求し責任を負はせるのみで、當の軍事当局は何等善処することなく、方策も樹てず放任し、爪のアカ指との誠意すら示さねかつた。かゝることに軍隊内の差別を助長させ、その永い間の軍隊生活の教育と環境が彼佐藤中將をして必然的に差別事件を惹き起させる要因を作り上げたといふ因果関係をハッキリ知らねばならない。吾々は明治四年の太政官布告に依り、旧

エタの身分から解放され、平等の人民的権利が保障せられる代りに、三大義務を要求されることになつた。それにも拘らず血のにじむやうな訓練を耐え忍ぶ兵彼の義務に服する軍隊内、その義務を累しなかり人民的権利が保障されず、今も尚執拗かつ深刻な差別を受けねばならぬとは何たる矛盾何たる不合理を。この矛盾こそ軍事当局が従来差別事象を放任して何等の融和政策をも執りなかつたことに起因してゐる。だから軍隊と軍事関係者に調整する差別の一切の責任者は、即ち軍事当局以外の何者でもないのだ。従つて此の事件は、佐藤中將が如何に誠心誠意謝罪の意を表明しやうとも、それは単に佐藤個人が社会人として当然負はねばならぬ義務をつくすだけのことであつて、